

## 第1回 生駒市景観形成基本計画策定委員会 会議録

1. 日時 平成23年6月20日(月) 9時30分～

2. 場所 生駒市役所401・402会議室

3. 出席者

(委員) 久会長、下村副会長、嘉名委員、大原委員、樽井委員、福本委員、  
植田委員、大西委員

(事務局) 吉岡部長、森本次長、前川課長、西本課長補佐、  
高谷係長、巽係長、塩崎主任、浅井(以上、みどり景観課)  
坂井、絹原、依藤(株式会社地域計画建築研究所)

4. 欠席者 なし

5. 会議公開 公開

6. 傍聴者数 4名

7. 市長あいさつ

委員の皆様、大変お忙しい中ありがとうございます。

案内のとおり、景観条例の方は、3月議会で景観法による規制を内容とする改正条例が成立した。これから、誘導、啓発、支援を盛り込んでいくための景観形成基本計画を策定していただくため、引き続き集まっていた。景観条例を制定し、広報等で宣伝はしているが、まだまだ市民にはあまり認知されていない。市民参加で景観条例を生きたものにしていくために、今回の景観形成基本計画は大変重要である。委員会に出席していただき、貴重な意見をお寄せいただきたいと思います。よろしく願います。

8. 議事内容

①会長及び副会長の選出について

事務局：資料1 生駒市景観形成基本計画策定委員会設置要綱第5条第2項で、会長は委員の互選により定められている。自薦、他薦等御意見を求める。

委員：生駒市景観計画専門部会の部会長として計画づくりを先導し、各地で審議会委員やアドバイザーとして活躍されている、経験豊富な学識経験者の久教授を推薦する。

事務局：久先生にお願いしてはという意見が出たが、いかがか。

一同：異議なし

事務局：それでは、久委員に会長に就任いただくこととする。よろしく願います。

副会長については、要綱第5条第3項に基づき、会長から指名願う。

会長：景観計画専門部会で、私と同様に副会長を務めていただいた下村委員に引き続きお願いしたい。

事務局：それでは、下村委員に副会長に就任いただくこととする。よろしく願います。

会長：皆さんの御協力をいただき、景観形成基本計画の策定をさせていただきたい。市長のあいさつにもあったように、既に同じメンバーで景観計画の策定をさせていただいた。その際に、まずは大きな方向性や市としての方針をしっかりと決めてから景観計画を策定するのが通常の手順ではないかという話もあったが、時間をかけている間にさまざまな開発により景観が壊されるということもあり、まずは早急に規制内容を中心とした景観計画を作らせていただいた。効果が発揮できるようになったので、これから大きな方向性、生駒の景観特性をしっかりと見据えながら景観形成基本計画を作らせていただきたい。回数を重ねながらいいものを作っていきたいと考えている。皆さんの協力をいただきながら、しっかり議論していきたい。

事務局：ここからの進行は久会長に願います。

会長：本日は、進め方についてしっかり意見交換していきたい。具体的な内容については、次回以降説明したいと思う。まずは、大きな方向性の共有が今回の委員会の目的となる。

## ②生駒市景観形成基本計画の策定について

### (1) 生駒市景観形成基本計画について

#### 事務局説明（資料2）

会長：1ページに、今までに作ったものも参考にしながら作っていったらという内容がある。

景観計画の専門部会るとき、ガイドプラン、基本計画をどう位置付けるのかについて議論したが、景観形成基本計画のときに再議論するということになったと思う。3ページ景観形成ガイドプランについては、市全体の景観構造をどう捉えていくのかということと位置付けていると認識している。2章では、地区で分けるのではなく景観の特性ごとに考えるという整理の仕方がされている。4ページでは、地区を大きく4つに分け、その地区ごとの属性、方向性を示している。前にガイドプラン、後ろに現在の景観基本計画を付けると全体像が出来上がると考えている。時点修正等も必要だが、この2つでしっかり景観特性を押さえ、方向性も示していると思う。これを利用して新たなものとして編集し直すというやり方と、白紙から作るという考え方があると思う。これらについて、御意見、御質問をお聞きしたい。

委員:ガイドプラン、基本計画について修正すべき必要性があるなら直さなければいけないのではないかと。基本的な考え方に変更がないなら踏襲すればよいのではと思う。

会長:平成6年に策定されたガイドプランや現在の景観形成基本計画は、どちらかというところ一番大切な理念や目標が、市役所サイドでリードして作ったものと認識している。今回、再議論させていただき、理念や方向性が違うのかどうか、修正するのかどうかも含めて考えていきたい。そのままでもいいとなれば踏襲となるかも知れない。

委員:踏襲というのは丸々残すという意味ではない。例えば、キャッチフレーズなどの必要性があるかどうか。キャッチフレーズを作ることによって意識が共有できるのであればいいが、先入観を与えるようなものならない方がよい。

委員:これから議論していけばいいと思う。都市計画マスタープランの委員から選任されたということだが、総合計画や都市計画マスタープランの方に話が及ぶのか、あくまでも景観でいくのかどうかははっきりした方がいいのではないかと。

会長:生駒市がやる政策、施策は総合計画に従ってやっていくということになる。さらに都市計画に関しては総合計画を受けた都市計画マスタープランを受けてということになる。当然、景観形成基本計画も総合計画と都市計画マスタープランを受けたものとなる。さらに、奈良県も都市計画マスタープランを作っているのだから、それも受けながらとなる。逆に、議論の中で総合計画や都市計画マスタープランの方針がおかしいとなっても、意見としては出していただいてもいいが、立場上計画を変えるということは難しい。次の計画見直しの際に参考にさせていただければと思う。

委員:他の関連する計画とどのような形で連携していくのか明確にしておく必要があるのではないかと。

会長:都市計画や環境計画などさまざまな手法を使いながら景観全体を良くしていく方向にならざるを得ない。推進方策の中で詳しくやっていこうと思う。では、おおむねガイドプランや現在の景観基本計画の内容を読み取りながら新しい景観形成基本計画に仕立てていくということで進めていきたいと思う。

## (2) 生駒市景観形成基本計画（改訂）の検討内容について

### 事務局説明（資料3）

会長:ガイドプランの後ろに現在の景観基本計画が付くという感じとされている。大きく生駒市全体の景観特性、構造を把握し、それぞれの景観形成の方向性を考え、続いて地域ごとに検討をすると考えている。後半は推進方策としてどのように進めていくのかを考えたい。これから議論していきたいことや「思い」などでも良いので意見をいただきたい。

委員:平成6年と現在では、時代背景も周りを取り巻く状況も変わっている。当時は都市整

備を推進していくことが前提としてあったと思う。今は、都市整備もあるがもっと多様化している。それを踏まえた考え方が重要になってくる。特に平成の初期の頃は、景観を「造る」という発想があったと思う。今はどちらかといえば「維持する」というような形になってきている。最近、和歌山県で景観支障物件に関する条例を作った。放っておくと朽ち果てて、景観を守り育てていく人がいないということが現実になり始めている。15年ぐらい前は考えなくても良い問題だったと思う。街中の商店街なども同じで、きれいにするだけでは問題の解決にはならない。時代の変化に伴い、景観を考えていく上での捉え方も変わってきた。今回、「活動」や「暮らし」がキーワードとして入ってきているのもそういうことではないか。踏襲していくことも構わないが、問題の本質が変わってきていることを念頭におきながら進めていくべきではないか。

会長:箕面市の景観基本計画を作成したとき、議論の中で新しい理念を入れた。その理念の方がこれから重要であるとして市でも位置付けている。それは「景観まちづくり」という考え方で、まちづくりの成果として景観が形成されるということ。景観だけを切り取ってデザインしていくのではなく、まちづくりを一生懸命することによって自ずと良い景観ができてくるという考え方。この数年間に新しく作られた計画や条例にはかなりの割合で「景観まちづくり」が入っていることがその証ではないだろうか。函館が最初に景観まちづくり計画という名前を使ったと記憶している。昭和50年代辺りから全国的に景観行政が始まったが、当時は、アーバンデザインや都市デザインといわれていた。先導した横浜市のアーバンデザイン行政を参考にしながら他の都市も進めていった。いかに新しく美しい開発をしていくかということで、みなとみらい地区がその典型となった。時代も変わり、神戸市のアーバンデザイン室、豊中市の都市デザイン室も現在はなくなっている。もう、アーバン、都市という時代ではないということ。

昨日、学生を連れて神戸市北野町に行ってきた。全国的にも早い昭和55年に伝統的建造物群保存地区に指定されている。10年ぶりに訪れたが、がっかりした。30年前には人も住んでおられ、生活のにおいがあった。観光地としてたくさんの方が来ており、観光客が歩く通りは土産物屋が多くにぎわっているが、一筋入ると空き家がどんどん増えている。住みづらくなり、地価も上がり、景気も悪くなっていくと一定数の店舗しかなくなってしまう。人が住まないというのは地域として問題。全国的に伝統的建造物群保存地区は80箇所を超えているが、北野町の場合は地域の盛り上がりではなく、神戸市がかなりテコ入れし地区指定をしているので、地域のまちづくりの動きは盛り上がっていないのではないかと推測される。倉敷でも川沿いの美観地区は観光化され土産物屋がたくさんあるが、裏側の本町地区には空き家がたくさん出てきている。駐車場になっているところもある。そこで空き家の持ち主に話をしに行くと「市役所がお金を出してなにかやってくれるでしょ」という答えが返ってくる。自分たちでなんとかしないといけないということでNPOを立ち上げ、空き家バンクという形で斡旋

し、ギャラリーなどの利用をしてもらおうという活動をされている団体がある。このような動きを活性化させていかなければならない。観光客によって一部は潤うが、地区全体としてはどうかということ。このような問題が観光地で起きている。そういう観点から生駒の場合はどうしていきべきなのか、次回以降考えていただければと思う。

委員：今回、「空間、暮らし、活動」の3つの視点の中で、以前、会長が箕面市で作られた「まちづくり作法集」のようなかたちでやった方がいいのかどうか。

会長：それは3ページにある推進方策の1つとして皆さんで考えていきたいと思う。景観形成基本計画を実現するために作法集を作るという話にもなるし、場合によってはこの景観形成基本計画を作法集的な記述の仕方にするということも考えられる。景観計画は規制なので守らなければ罰則があるが、景観形成基本計画はこういう形でやってみませんかという呼びかけのようなもの。そこが誘導、啓発という意味合いになると思う。

委員：先程の神戸市の話は他人事ではない。生駒市でも現実に空き家は増えている。また、1人住まいの人も増えている。若い人は昼間働きに出ているので実働部隊がないのが現状。まさに問題の本質であると思う。そこをしっかりと議論しないと計画は進んでも市民はついてこないかも知れない。私の住んでいる地区ではかつて祭りがあったが、祭りが盛んになるにつれ地域が乱れるということになりやめてしまった。活力を取り戻すという意味においても祭りを開催する必要はあるのではないか。そのような時代の変化も景観とともに考えていく必要があると思う。

会長：あまり突っ込みすぎると形成基本計画の範囲が広くなり、総合計画と同じぐらいのものになってしまうかも知れないので、バランスを取りながら考えていきたい。前向きな話として、最近30代が古い家を改装して住居やお店にするという知り合いも増えてきている。40代後半以降と20代、30代は考え方が変わってきていると感じる。茨木市でも古い民家を活用した新しいカフェも数件できており、おもしろい発想で経営されている。また、茨木湯という銭湯が廃業したあと、建築家の方のアイデアにより、カフェ茨木湯というカフェに変わった。元の脱衣所やお風呂場にそのままテーブルと椅子を持ち込み、お酒を飲んだり食事をしたりすることができるのがおもしろいということで人気がある。全国的にもいろいろなアイデアが出てきている。活用しなければ古い建物は守れないが、活用次第では逆に魅力UPしおもしろくなる。副会長、委員もたくさん事例をお持ちだと思うので、持ち寄って生駒で可能性があるのかどうか、展開するときにはどのような仕掛けや仕組みが必要なのかを考えていくと非常におもしろい計画作りができるのではないだろうか。課題を上げてそこから何かをするとすると重たくなってしまふ。楽しく前向きな話ができればと思う。

大和郡山市では、川本家住宅という昔の遊郭で木造3階建ての建物を市が買い取ったが、耐震工事の予算がないということで、買い取ったものの使わせないということになった。どんどんボロボロになっていく中、どうするのかということで議論した結果、地震で潰れても市の責任にしないと一筆書いてもらおうということを提案した。掃

除も使用する人がするというので、まず、奈良県建築士会に使っていただいた。中に入ってみるといい建物だということで、見学会や会合で使おうとなり、そこから仲間がどんどん増えてきている。10代後半の専門学校生もメンバーにおりアイデアを出している。活動を続けているうちに近鉄の大和郡山歴史巡りツアーのルートにも入り、どんどん展開が広がっている。希望としては、市民がお金を出して耐震工事を始め、建築士会がボランティアで設計し、工務店もただで直してくれること。そうなるともっとおもしろくなるのではないか。おもしろくみんなが生き生きする形でやっていける仕掛けを生駒でもどんどん考えていきたいと思う。

倉敷では、NPOさんが坂の上の家を買い取ったが、坂の上まで重機が入らず改装工事が難しくなったとき、ホームページで夏休みに「町家の改修ワークショップをする」と呼びかけたところ、全国から約100名の人が集まり、バケツリレーでセメントを運ぶなど、材料費だけで改装ができたという事例もある。アイデア次第ではないか。その辺りを推進方策で話していただくとおもしろい展開になると思う。

委員:都市計画マスタープランでは、行政、市民、協働について、市民がどうするのかということがかなり書かれている。今回は、市民にどうして欲しいのか、どのような書き方をするのか。ここに書いていないことは支援しないと捉えられることもあるのではないか。あまり具体的な内容でなく支援の方針を述べるという形でいいのではないか。

会長:その辺りの議論になったときに具体的に考えていきたい。いつも悩ましく思うのは、生駒市と書くが「生駒市」とはいったい誰なのか、これを市役所と解釈すると市役所がすることを計画に盛り込むことになる。市民、事業者も含めた「生駒市」となれば、内容の書き方や語尾も違ってくる。主体がどう呼びかけるのかについても議論をさせてもらわなければいけない。

委員:今年、建築士会の女性部会が開催する全国大会のテーマが「コミュニティの再生」ということで、今回の話にも共通するものだと思う。平成6年から何がどう変わってきたかということについての共通認識を持つことが大事だと考える。今、エネルギー政策が変わってきており、住宅の屋根にソーラーパネルを乗せるという動きが現実味を帯びてきている。経済政策上はいいのかも知れないが、景観的にはどうなるのか気になる。その辺りもお話できたらと思う。

委員:2ページ「市民、行政、事業者、協働による景観まちづくり」とあるが、市民が高齢化していることもあり、お願いした方がいいという考え方の方が強くなっていくかも知れない。例えば、市役所の正面に公園があるが、ここは寿大学の学生が木を寄付し、事業者、市も入っている。市民、行政、事業者の3者連携のまちづくりになってきているが、現実には頼んだ方が早くて楽だという考えもかなりある。

会長:誰かに頼むと楽かも知れない。しかし、それをどんどんしていくと頼まれた方は大変になる。金もかかる。そこをどういう形で役割分担するのか、慎重に議論しなければならない。頼む人が増えるとバランスが崩れてくるかも知れない。逆に言うと、公園を管

理したい人もいる。茨木では、「花つくり隊」というまち中に花を植えたいというグループがあり実際に花を植えている。そのような人もいるのでうまくマッチングすることも行政の役割として重要なポイントと考える。

大和郡山では、どんどんおもしろい展開がされている。10月23日には色々な企画がされており、町家でのアート展示なども開催される。実行委員は10人ぐらいで若い30代の人を中心となっている。私も10年ほど大和郡山のお手伝いをしている。まずは元気な人を見つける、そうするとその元気な人どうしのつながりで仕掛けが始まる。和菓子の方の菊屋さんにも協力していただいております、事業者のネットワークを活用した動きも出てきている。

委員:このような仕組みの中に子どもや教育などの分野の塊があると思う。PTAや幼稚園、ボーイスカウトなどの親は自分の子どもたちが育っていくまちを良くしていきたいという気持ちがある。景観が良くなり財産価値が上がり、教育水準も上がり、子どもたちもまたここに住みたいという循環がうまく発信できればいい。若い人たちがこの仕組みに手を入れなければいけない位置付けにある計画が作れたらいい方向に展開していく気がする。

会長:そのような景観やまちづくりに今まで距離を置いていた人に、仲間に入ってもらう仕掛けや仕組みができれば、おもしろいと思う。まず、景観形成基本計画という名前が硬い。これを手にとって読むのかどうか。子ども向けワークショップがあってもいいかも知れない。茨木では、10年ほど前から夏休みに小中学生のためのまちづくり講座を開催している。うちの研究室の学生が協力させていただいている東淀川区井高野小学校では、地域教育協議会の方が何かおもしろいイベントをしたいということで公園を使ったワークショップを企画した。午前中にグループごとにダンボールで遊具作り、午後に公園でそれを使って遊ぶというもの。普段TVゲームで遊んでいるけれど、このような段ボールでも知恵があれば何時間も遊ぶことができ、また、自分たちで造った遊具は人に勧めたくなる。普段使っている公園をもう一度見直してみましようということ。このような景観まちづくりワークショップに親御さんを巻き込んで企画してもいいと思う。ほかに、宝塚の総合計画は宝塚NPOセンターが仕事を請けて作らせていただいた。内容は、漫画版総合計画になっており、分かりやすく読んでもらえるように工夫されている。

副会長:生駒市では山側から市街地の方まで線引きに基づいて3地区に分け、規制をかけた計画が出来上がっている。それを4つの地域に分け、空間、暮らし、活動の視点からとらえ、更に生駒を特徴付ける骨格の景観、拠点、生活景が入り組みあっている。区別されているので問題なくこのテーマでいけると思うが、上から流れてくることをチェックしながら作って行けたらと思う。全体、地域、それぞれの取組をいつも頭に置きながら考えていく必要がある。社会情勢が変わってきている中で、空間構造を読み取って将来の景観構造が書かれているが、推進方策のところはまだまだ今の状況ではない。もっと突っ込んで議論していく必要があると思う。また、色々な活動があるが、空間や自然な

どではないさまざまな地域の特性を考えながら、活動方針を考えていく必要がある。みんなと一緒に景観づくりをしていくという方向をしっかりと分かりやすく表現していく必要がある。アンケートを作るとき、小学5年生ぐらいが読めるものにしようと思がけている。自然、田園、市街地と規制内容は同じだが、目指す風景は微妙な違いがあると思う。それを活用しながら具体的にどう進めていくかを議論し、推進方策の中で協働の体制を示せたらと思う。

会長：小学4年生の社会科に「まちを知ろう」という本があるので、そのときの副読本として使っていただけたらおもしろいと思う。

副会長：小学4年生に、家から学校までの店や、印象に残るまちについて書いてもらうなど、どんどん取り入れて地域を知って欲しい。やはり子どもたちは大事だと思う。

会長：国の方でも、景観まちづくり教育に力を入れようということで冊子を出されている。参考にしてもいいが、まだまだ、専門家が作ると教えたことをどう教えるかになってしまう。ファシリテーションで遊びながらどう気付くかという観点でいうと、直接色んなことを言わない方がいい場合もある。井高野小学校で、ダンボールに色を塗って街中に置き、それを早く5つ探してきたチームが勝ちというゲームをした。赤緑黄のチームに分かれ、自分のチーム色のダンボールを探すというルール。一番早く帰ってくるのは見つけやすい赤チーム、最後は見つけにくい黄チームになると分かっているが、子どもたちには、帰ってきてからなぜこのような結果になったのかを聞く。そこで、赤はすぐに見つかる色だから危険なものは赤になっているということを知り、まち中の色彩問題を学習する。初めから「消火栓はなぜ赤く塗っているのか」と聞いてしまうと逆効果になる。景観まちづくり教育読本のようなものを提案してもいいかも知れない。教育委員会と一緒に具体的な方針や方策を進めることも考えられる。

具体的な内容は次回以降詰めさせていただく。今回、さまざまな重要な意見をいただいたので、事務局の方で次回以降の検討項目の中に反映をしていただけたらと思う。

### (3) 策定委員会の進め方について

事務局説明（資料4）

会長：おおむね、二ヶ月に1度のペースで進めさせていただきたいということ。ゲストスピーカーにも来ていただき、私たちも生駒の現状を認識させていただくということによりお願いする。

## 9. その他

### (1) いこま塾ワークショップの開催状況について

事務局説明（参考資料1）

会長:計画を策定する中で、行政が市民側の活動にあれこれお願いするのも失礼なので、市民側から「何がしたい」「どう応援して欲しい」と言ってもらい、それをうまく反映していくという形がいいと思う。それが支援方策の中に組み込まれ、連動していくという方向で進めていきたい。

## (2) いこまの大切にしたい「生活景」の募集について

### 事務局説明（参考資料2）

会長:今回は大きな方向性を示し、次回以降詳細なやり取りをしていくということになる。

委員:第4回の勉強会に、「生駒の森林農地の担い手について」とあるが、生駒の景観の骨格を形成している地域についての勉強会と理解していいのかどうか。林業農業ではなく、もう少し自然環境の面に触れてもらいたいという思いがある。

参考資料2の募集内容はいいと思うが、過去にアンケート調査で生駒の好きなどころなどを地図にまとめたものがあつたと記憶している。それらを整理したら分かりやすくなるのではないか。

会長:自然環境について、具体的にどういう方の話がいいのか。

委員:環境基本計画の中に、生態系やビオトープなど、景観につながるものが多くあると思う。それらについて、生駒ではどのように考えているのか再整理したい。また今後、生駒が自然環境にかかわる施策をどのように進めて行くのか簡単に説明を受けられたらと思う。環境政策課の方のお話で十分かと思うが。

事務局:できるだけ、「誘導、啓発、支援」に近い形のものを考えているので、地域で実践されている方々の生の声を聞かせていただく方がいいのではないか。

委員:それでも結構。

会長:今までの調査を再整理ということだが、景観という面で再募集したい。今回はビジュアル的にまとめるということで、写真も送っていただければと思う。「ええとこブログ」ということで、市民の方々に写真付きでブログに書き込んでいただいている例もある。

事務局:ここは「生活景」ということで市民の身近な暮らしを捉えたものを募集して欲しいと思う。

委員:以前、アンケートに松ヶ丘通りにある2本の桜の木が大切だという意見があつたと思う。そのように出てきた意見を硬く考えず整理していけばいいと思う。募集の仕方も若い人にはインターネットの方がいいかも知れない。

委員:委員も生活の中でいいと思うものを持ち寄ってもいいのではないか。

会長:ぜひともお願いしたい。

委員:企画の主旨に、ふだんの生活で目にする大切な景観（生活景）とあるが、生活景とい

うのは地域の営みが表出したようなものを指すので厳密にいうと違うと思う。言葉づかいは生駒市がいいと思うものを募集するというのでいいと思うが、少し整理はしておいた方がいいかも知れない。例えば、世田谷区では「地域風景資産」といういい方をしている。団地の給水塔など、子どもの頃から見ている地域のシンボリックなものなどをとり上げたりしている。そのような景観の捉え方もあると思うが、それは生活景とは違う。今回、求めているものは何かということは、ある程度はつきりさせた方がいい。生活景というのは、すでに定義がされているものなので、それに基づいてということになると思う。また、生駒市が募集するとなると、個人の家を生垣などが載せられない、地域的なバランスが保てない等、行政がやるというしんどさが出てくる場合がある。別の主体が行政と連動してやる方がいいと思う。

会長:「生活景」という言葉は建築学会が定義しているので、その辺りの誤解がないようにということだと思う。本来は「景観」＝「生活景」ということだが、景観という言葉が別のイメージを持って使われてしまっているので、分かりやすくするために生活景という言葉が使われるようになった。もともとは、地理学の分野でドイツ語の「ランドシャフト」が「景観」と訳されてきた。良い悪いは関係なく、私たちが暮らし、社会を動かしていく中で、土地の上に現れてくるものを総合して「ランドシャフト」と呼んできた。まさに、土地の上に生み出したものすべてが「景観」ということになる。しかし、現状はデザインの側面で語られたり、良い景観、悪い景観という評価がついてきたりするようになってきた。そうではなく、私たちの生み出したものすべてが景観ということを知りやすくするために生活景という言葉づかいをさせてもらっている。

誰がやるのかも考えなければいけないが、どういう呼び方をするのかもポイントになる。市がやっても、市民が気に入ってブログに書き込んでもらう分には、社会的に問題のあるもの以外はどんどん書き込んでもらってもいいと思う。そうなれば行政がやっても、バランスをあんまり気にしなくてもよくなると思う。

副会長:できれば写真を載せてほしい。大阪市内で市全体と身の回りでいいと思う風景を調査した結果を見たが、どこから何を見たかということを書いて欲しいと思った。写真があれば後から特定できないこともない。また、写真を使わせていただく著作権もお願いしておかないといけない。

会長:先程、委員も持ち寄ったらいという意見があったが、非常にいいと思う。各自のお気に入りを見ると、性格やこだわりが分かる。こだわっている風景が微妙に違ってくると思うが、それを組み合わせることによって、生駒の景観をどう良くしていくのかという議論も始められる。どこかのタイミングで自己紹介も兼ねて、5枚ほどこだわっている風景写真をプレゼンテーションするのもおもしろいかも知れない。

委員:まちづくりワークショップの第1回目のときに、都市マスの項目ごとに、自分の生活について書いてくるという宿題があった。かなりプライベートな自分の意識について書かなくてはいけないので、そのまま提出するとなると恥ずかしいという思いもあった。

実際には提出しないで次のワークショップに使ったが、全部まとめると個人情報が出しになる。

会長：まちづくりは本音が積み重なったものなので難しいところもあるが、一度みんなで言い合うのもおもしろいと思う。

また、他にもアイデアがあれば言っていただきたい。委員からもあったように、PTAや子どもたちを巻き込んで、お気に入りの風景を持ち寄ったワークショップを開催してもいいと思う。昨日の学生を連れたまち歩きの問題もお気に入りの写真を1枚提出してもらおうというもの。それをオープンキャンパスのときに来ていただいた高校生と親御さんに投票してもらい、一等になったら御褒美をもらえることになる。このようなワークショップは色んなところできると思う。井高野小学校でも、子どもチームと親チームに別れて使い捨てカメラで写真を撮ってきてもらい、親と子のまちを見る目線の違いを話し合うというものをした。子どもたちは自分たちの親が何を撮ってきたのか興味津々で、親も子どもたちにいいところを見せたいということで盛り上がった。生駒市でも地域の小学校に協力してもらってやってもいいと思う。

### (3) その他

事務局：次回は8月後半を予定している。日程が決まり次第連絡する。

以上